



平成30年度 全国学力・学習状況調査結果報告

3年生対象に、平成30年4月17日(火)に行われた「全国学力・学習状況調査」について、本校の結果等をお知らせ致します。なおこの調査で測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。

全国学力・学習状況調査

1 学力に関する調査

国語A、数学A・・・基礎学力(知識)を問う問題

国語B、数学B・・・応用力(活用)を問う問題

理科・・・基礎学力(知識)を問う問題/応用力(活用)を問う問題

〈国語〉

- ① 全国の平均正答率(国語A 76.1%、国語B 61.2%)と比べると、国語Aはほぼ同じで、国語Bは約1ポイント下回っていました。
- ② 平均無解答率において、全国と本校を比較すると、国語Aは0.7ポイント低く、国語Bは1.5ポイント高い結果でした。
- ③ 出題の趣旨において、国語Aで、本校の正答率が50%以下の設問は、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。(23.5%)」「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く。(15.9%)」「行書の適切な書き方を理解して書く。(42.5%)」でした。国語Bにおいては、「文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える。(48.7%)」「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く。(10.2%)」「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く。(46.9%)」でした。
- ④ 文脈に即して漢字を正しく書く・読むことについては全国平均を大きく上回ったものが多く、「話す・聞く」についても年間を通して学習しており力がついてきています。しかし、慣用句については正答率が低く、文脈の中で意味を理解し、使用できるようにする必要があります。また、文章の内容読解や資料等を読み取る力が不十分であるため、読み取ったことを条件に応じて文章表記する力をつけていく必要があります。

〈数学〉

- ① 全国平均正答率(数学A 66.1%、数学B 46.9%)と比べると、数学Aは約3ポイント上回り、数学Bはほぼ同じでした。
- ② 平均無解答率は全国平均に比べ、数学Aは0.7ポイント低く、数学Bは1.4ポイント高い結果でした。
- ③ 出題の趣旨において、数学Aで、本校の正答率50%以下で全国の正答率を下回っている設問は、「証明の必要性和意味を理解している。(41.6%)」「一次関数の意味を理解している。(31.4%)」「多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している。(40.7%)」、数学Bにおいては、「与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる。(42.9%)」「不確定な事象の起こりやすさを傾向を捉え、判断の理由を説明することができる。(35.8%)」「事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる。(33.6%)」「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。(10.6%)」「付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる。(38.9%)」「里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる。(8.0%)」でした。
- ④ 数と式や方程式、関数や図形の基礎的な問題は全国平均を上回っていますが、具体的な事象から関数関係を見いだしたり、確率の意味を捉えたり、数学的な表現を用いて説明する力が不十分です。

〈理科〉

- ① 全国平均正答率66.1%と比べると、理科はほぼ同じでした。
- ② 平均無解答率は全国平均に比べ、理科は0.2ポイント高い結果でした。
- ③ 出題の趣旨において、理科で、本校の正答率50%以下の設問は、「濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる。(40.3%)」「風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる。(42.0%)」「シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる。(47.8%)」「植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる。(20.8%)」

- %)」でした。
- ④ 自然現象への関心・意欲・態度や科学的な思考・表現においては正答率が全国平均を上回っていますが、観察・実験の技能の正答率は全国平均を下回っています。基礎的な器具の使い方や語句を定着させる必要があります。

2 学習状況調査

学習状況調査とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査のことです。質問は59項目ありました。その中の一部の結果を報告します。

●自尊感情

「自分にはよいところがあると思いますか。」という質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は77.9%(全国平均78.8%)でした。

学校や家庭で一人一人の良いところを認めて、積極的に言葉かけをしていくことが大切です。また、行事や部活動を通して、達成感や充実感を味わうことによって、自信をつけることができるようにしたいと考えています。

●夢や目標

「将来の夢や目標を持っていますか。」という質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は73.5%(全国平均72.4%)でした。

将来の夢や目標を高く持っている人が多いことがうかがえます。

●人権意識

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」という質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は98.6%(全国平均94.9%)でした。

いじめに関する高い人権意識が持っていることがうかがえます。

●朝食

「朝食を毎日食べていますか。」という質問では、「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒は90.7%(全国平均91.9%)でした。

「早寝・早起・朝ごはん」の徹底をご家庭でもさらにお願いします。

●家庭学習

「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)。」という質問では、「3時間以上」が6.6%(全国平均10.5%)でした。

家庭での学習習慣が定着していないことが見受けられます。

●地域との関わり

「1,2年までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。」という質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は72.6%(全国平均は68.7%)でした。

今後も東中地域活性隊の活動を軸として、部活動等のボランティア活動を通して、地域との関わり・連携を図っていきたいと考えます。

3 今後の取り組みについて

- ① 数学において、専門用語についての理解を具体的に示して深めるとともに、数学的な表現を用いて説明できるよう取り組んでいく。また、日々の授業において計算練習を増やして、特に関数については基礎・基本の確認を行い、グラフ・表の読み取りに力を入れていく。
- ② 国語において、読み取ったことを要約し、言葉や文章で他者に正しく伝える練習を行う。また、現在取り組んでいる図表や資料の読み取り、語彙力アップのためのトレーニングを継続して行う。
- ③ 理科において、定期的にワーク等で1・2年の学習内容を振り返り、基礎的な語句や内容を定着させる。また、授業や定期テスト等で長文や実験の操作等を読み込む資料を多く取り入れ、読み取り理解する力をつけていく。
- ④ 日々の授業において、「今日のねらい」と「振り返り」の定着化と周知徹底を図っていく。また、基礎・基本の定着を図り、繰り返し学習を充実させる。
- ⑤ 数学、英語において、小人数授業を充実させ、新学習システムの有効活用を行う。
- ⑥ コミュニティ・スクール事業における取り組みを生かし、東中ファミリーサポーターズとの連携強化を図り、地域・保護者・学校総がかりで学力向上に取り組んでいく。
- ⑦ 本校の特色ある取り組み(立腰教育、無言清掃、文化芸術体験事業、東中地域活性隊等)や部活動・学校行事を通して自尊感情を高めていく。
- ⑧ 学校図書館を活用し、学校図書館司書、ライブラリーサポートと連携し、読書教育の充実を図る。
- ⑨ 教科間・学年間連携を図り、9月下旬以降、特に3年生を対象とした補充学習、個別学習、放課後学習の充実努めていく。